

鼓童文化財団の人材育成

くらす・まなぶ・つくる ～2025年11月～



1985年に始まった鼓童の研修制度は、今年40年を迎えました。
1996年からは、豊かな自然に囲まれた柿野浦の校舎をお借りして共同生活を行い、
くらし、農作業、祭りへの参加などを通して、季節を肌で感じながら過ごしています。

来年1月、2年生は研修を修了し、準メンバーへの選考の時を迎えます。また1年生は進級選考が待っています。
悩み、迷いながらも、夢に向かって打ち込んでいく。研修生たちの想いをぜひご覧ください。

鼓童研修所の変遷

1985年に始まり、40周年を迎えた鼓童の研修制度。
2026年度は新研修生の募集を休止し、カリキュラムや施設の見直しを行うなど、大きな転換点を迎えている
研修所の変遷を改めて振り返ります。

写真：坂口正光、吉田励、田中文太郎、岡本隆史、鼓童 構成：本間康子

研修所の歩み

1996年～現在「15期」44期

1996年

旧岩首中学校に研修所を移転。
12月、研修生とスタッフ、準メンバー数名で、
鼓童村から研修所までの42.195kmを走るマラソン大会を開催。
山田敬蔵氏(1953年ボストンマラソン優勝)が伴走してくださった。

1997年

鼓童文化財団設立を機に研修所を2年制とする。
スタッフ志望の研修生の受け入れも開始。写真①(撮影・坂口正光)

1998年

4月、2年生が柿野浦の春祭りに参加し、鬼太鼓を打たせていただく。
また、研修所を会場に「鼓童流音楽運動会」を開催。写真②
12月、研修生自身の企画により「第1回収穫祭」を開催。

2000年

7月、研修所で勉強会開催。鼓童の生みの親と言える本間雅彦先生、島崎信先生、
永六輔氏の3名が初めて揃った会となった。写真③(撮影・吉田励)

2002年

25歳までだった研修所入所時の年齢制限を廃止。(2014年まで)
この年は18歳から32歳までの12名が入所した。

2005年

研修所が柿野浦に移って10周年を迎えたのを記念し、
柿野浦の研修所を修了した鼓童メンバーが、収穫祭の中で小公演を行った。

2006年

地元の方々のお力添えにより、研修所体育館(稽古場)の屋根瓦を葺き替え。写真④
開館まもない佐渡太鼓体験交流館(たたらこ館)で24期生の修了式を実施。

2007年

新研修生の受け入れから、
2年生と1年生がペアになって教え伝える「後見人」制度を開始。
写真⑤(撮影・田中文太郎)

2010年

「簡素な生活を通して、物事の本質を見る目を養う」という環境づくりの一環として、
個人の携帯電話の使用・持ち込みを禁止。

2011年

校舎の玄関のすぐ外に、簀え立つように成長したヒマラヤ杉3本を伐採。
(数年後に製材して棚板などに活用) 写真⑥

2012年

鼓童初の佐渡での連続公演「鼓童佐渡特別公演」を宿根木公会堂で開催。
研修生2年生が実地研修として演奏に参加。写真⑦(撮影・岡本隆史)

2013年

7時間睡眠を確保するため、起床時刻4時50分を「5時ちょうど」に変更(夏時間)。
応募資格を「鼓童メンバー志望者」に限定。

2014年

旧深浦小学校校舎を活用した研修施設「深浦学舎」の運営を開始し、
「地域づくりコース」実習生試行第一期生2名を受け入れ。

2015年

8月、初の試みとして2泊3日の「夏の体験入所」を開催。写真⑧
EC期間中に研修生2年生による演奏と話で構成する

2016年

「研修所紹介」鼓童の舞台を夢見て」を開催。写真⑨(撮影・岡本隆史)

2018年

海外から「KASAMIX」、「Roots of Kodori」
2つの合宿ワークショップを受け入れ。写真⑩

2020年

コロナ禍により、1年生の入所が例年より1ヶ月遅れる異例のスタート。
地域外への外出をできるだけ控え、様々な行事や稽古も中止となった。
Nookなどを利用しつつ、試行錯誤の中で研修を行った。写真⑪

2021年

島外から外部講師を招いての稽古が少しずつ行えるようになった。
感染対策に留意しつつ、地域の方々と交流や、祭りなどの行事にも参加。

2024年

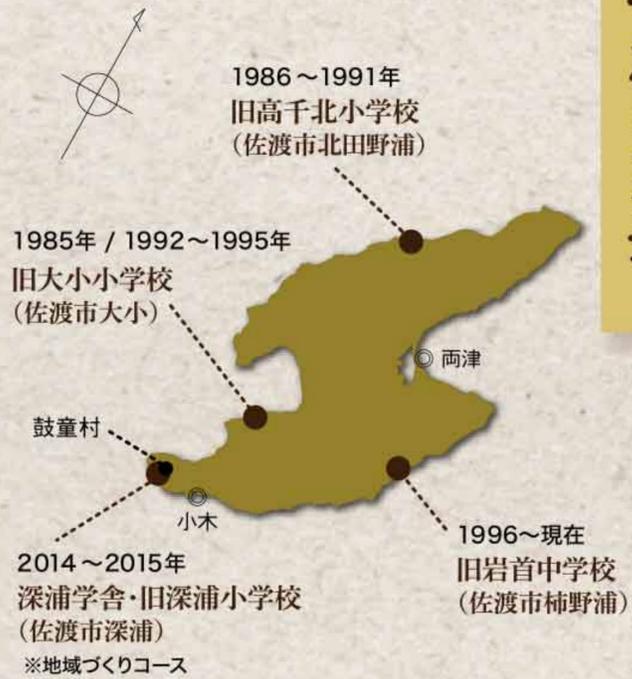
ECの無料パフォーマンス企画として、
新潟市で活動するりゅーとびあ専属舞踊団 Noisn Company Niigata の
研修生カンパニー「Noisn2」と、研修生2年生が共演。写真⑫

2025年

3月、研修所の稽古場の床を修繕。在島メンバーとスタッフ、研修生も一緒に
作業を行った。
年齢制限の上限を27歳までに変更。舞台メンバー志望者に加えて、「太鼓を通して
社会貢献する目標を持つ人」に門戸を広げ、1年次のみ1名を受け入れ。

※1985年から1995年までの歴史は、
機関誌「季刊鼓童」2024年11月 Winter号を合わせてご覧ください。
(鼓童ウェブサイトでも公開しています)

場所の変遷



写真④



写真⑥



一年生

〈44期〉



※今年、鼓童のメンバーになることを希望する人以外に、「太鼓を通して社会に貢献する目標を持つ人」に門戸を広げ、1名を研修生として(4月~1月までの10ヶ月間)受け入れています。

NAVIN NICHOLAS AKAMINE

(ネイビンニコラスアカミネ)

28歳 アメリカワシントン州出身

- 1 熊本県の小学校と中学校でALTとして最高の生徒達に英語を教えていました。
- 2 笛！お祭り！大太鼓！
- 3 パン、だご汁
- 4 パン屋さん
- 5 佐渡の方々のあたたかさ自然に囲まれる大切さ。
- 6 今年の抱負は「目を開いて、力を抜いて、バカになって！」アメリカ出身の28歳のニックです！毎日言語や文化の壁にぶつかったり、自分のできないことはかり考え込んだり、苦戦いっぱいだった研修生生活を送っています！(笑)まだまだ未熟な僕ですが、こころと成長して、一瞬一瞬を楽しめるように頑張っています！

加藤 晴菜

(かとう はるな)

27歳 京都府京都市出身

- 1 舞台役者！熊本の劇団でお芝居をしていました。
- 2 吟行の時間。
- 3 豚のしょうが焼き
- 4 世話好きの女将
- 5 豊かな生活
- 6 おもしろい人間になりたくて研修所に来ました。こは、どれだけ自分の心を踊らせてキツさを楽しむか……！自分と人と芸に向き合う毎日です。私は1年次のみで来ていて、修了後は、太鼓を始めた熊本県高森町へ戻ります。ここで得たことを町の太鼓活動に繋げて豊かにしたい。残り3ヶ月、おもしろい人間になれるかなあ……！

高橋 咲和子

(たかはし さなこ)

19歳 東京都武蔵野市出身

- 1 部活(和太鼓部)のことばかり考えている高校生。ピアノと本と家も好きでした。
- 2 研修所内の整備。心も整います。
- 3 きのごスープ！自信あります。
- 4 食材係。食費関連の諸々を考える人です。
- 5 どうデカイ自然。月明かりは本当に足元を照らすのだと佐渡に来て知りました。
- 6 佐渡に来て半年が経ちました。色んな人と出会いました。色んなものを見ました。佐渡も研修所もとても素敵なところで、半年間いつも何かに感動したり考えたりしていたように思います。私はそうやって心が動いた瞬間を、もっと周りに伝えられるようになりたいです。のんびりしてはいられません！丁寧に駆け抜けます！

山口 竜輝

(やまぐち たつき)

19歳 京都府宇治市出身

- 1 部活(太鼓部)を生き甲斐に高校に通っていました。
- 2 岩首の鬼太鼓、裁縫
- 3 まだありません。(日々特訓中です！)
- 4 田んぼ係、茶道係、ゴミ回収
- 5 大自然とそこから見る景色。棚田と星空が気に入っています。
- 6 研修所に入所して約半年、僕はまだ自信を持って、これが得意料理です！と言える料理がありません。自分の苦手や弱さと向き合う日々。苦しいこともありすが、だからこそ得られる楽しみや喜びは、他の何にも変えられない素晴らしいもので、僕はそれが大好きです。これからも、ここでしかない経験を大切に、自分と向き合っていきます！

小原 基義

(おはらもとよし)

18歳 神奈川県横浜市出身

- 1 和太鼓が好きで高校生の祭り、EC
- 2 麻婆豆腐
- 3 米係
- 4 ここで出会う全ての人々
- 5 研修所でみんながつくる食事はどれも美味しいです。特に美味しい日は最高で、食事が盛り上がり研修生全体のハイプスもアップする気がします。食はいのち。5月に食育の時間があり、そこでそう学びました。
- 6 美味しい食事をつくって食べて笑って、健康やかに稽古に励みます！

花井 琢真

(はないたくま)

18歳 愛知県豊田市出身

- 1 全校生徒七百人の高校で生徒会長を務めたり、友達と沢山遊んだりしてました。
- 2 笛と唄の稽古、食育の時間
- 3 唐揚げ、キムチ
- 4 研修所キムチ同好会副会長
- 5 親のありがたみ、家族や友人など応援してくださる人の存在。
- 6 11月18日生まれAB型のタクマです。僕は太鼓と同じくらい大好きなものがありません。それは仮面ライダーです。小さい頃からヒーローのかわりに、こよきに勇気と元気をもらっています。僕も演奏を見下さなかった方々に勇気と元気を届けられるヒーローのような演者を目指しています。なので日々の稽古や生活で自分と向き合い成長していけるように頑張ります。

佐藤 昌平

(さとうしょうへい)

24歳 スペインバルセロナ出身

- 1 大学生、日本語教師、通訳者、調理補助、寮の班長、会場設営の手伝い。
- 2 農作業、大太鼓。
- 3 ペシヤメルソース。
- 4 田んぼ係、床屋、修理屋
- 5 研修所で学んだ芸能と自然
- 6 スペイン生まれ、エクアドル、ボリビア、ブラジル育ちの日本とボリビアのハイフです。手作業や学び物が好きです。「知って、やれて損はない」と思っている。「何でも屋」みたいな人になりたいです。お会いする機会があったらぜひ好きな事についてお話できたら良いなと思っています。よろしくお願ひします。

吉鶴 啓汰

(よしつるけいた)

19歳 千葉県習志野市出身

- 1 部活、歌うこと、友達と遊ぶ事が大好きな高校生でした。
- 2 毎朝走って登る12キロの研修所の坂道。
- 3 バターチキンカレー、ナン
- 4 カレー同好会インド部
- 5 毎日表情の違う海。朝のランニング中に沢山の表情を見せてくれます。
- 6 研修所に来てから、一言言われた言葉は「ケイタってハーフ？」です。目のホリが少し深いののでよく間違われますが、親戚をたどっていくとどうも日本の血だそうですね。歌うことがとても好きなので、太鼓でもそんな明るい演奏を早く皆様にお届けできるように、毎日の稽古を全力で頑張ります。

二〇二五年 講師の先生方

(五〇音順 敬称略)

- 青柳洋子 「能」宝生流教授嘱託
- 赤塚五行 「俳句」新潟日報佐渡版 俳句選者
- 朝倉大輔 「能」シテ方 宝生流能楽師
- 石川義純 「津軽手踊り」宗家石川流師範
- 伊藤多喜雄 「唄」民謡歌手
- 小木さざ波会 「小木おけき」
- 加藤一郎 / 加藤酒造店の皆様 「酒蔵見学・酒造り体験」 「金鶴」醸造元
- 金子竜太郎 「身体基礎」和太鼓奏者
- 狩野泰一 「篠笛」篠笛奏者
- 金城光枝 「琉球舞踊」琉球舞踊家・太鼓流華の会師範
- 葛原正巳 「陶芸」
- 高橋和枝 「ハラスメント講習」カウンセラー
- 野上結美 「ヴォイストレーニング」声楽家
- 野村和仁・清美 「水口囃子」水口ばやし 水口囃合代表
- 本間隆・小野稔彦・関根勝義 「ランニング」佐渡マラソクラブ
- 松田祐樹 「講義」佐渡の芸能研究者
- 南敬次 「刃物研ぎ」
- 桃井宗生 「茶道」真千家学校茶道教授
- 柿野浦鬼太鼓保存会、「鬼太鼓」
- 岩首余興部 「田んぼのことなど様々」

鼓童メンバー講師

「太鼓、唄、踊り、笛、邦楽楽器類、外部講師の稽古立会い等」

- 指導及び運営・管理
 - 見沼知弘 小平一誠
 - 小松崎正吾 小野田太陽
 - 本間友恵
- 指導
 - 藤本吉利 中込健太
 - 小島千絵子 住吉佑太
 - 藤本容子 米山水木
 - 齊藤栄一 三枝晴太
 - 宮崎正美 中谷憧
 - 阿部好江
- スタッフ講師 (主な担当)
 - 大井キヨ子 「小木おけき踊り」 裁縫・農作業等
 - 菅野敦司 「自由研究・鼓童の話」
 - 本間康子 「サンバ打楽器」 能楽立会い



自分たちで育て収穫する恵みの秋

二年生

〈43期〉



藤巻咲良

鈴木桃子

森日向太

船倉瑠生

多々良丞

萩原慧誠

自分らしく、一歩ずつ

たたら しょう

多々良丞

20歳 埼玉県伊奈町 出身

研修所に入所する前は「研修所は自分には無理」と決め付けていました。それでも研修所に来ようと決めたのは周りからの応援と、将来太鼓を自分の仕事にしたいと思ったからです。ですが研修所に来て嫌な事ややりたくない事、太鼓以外にやらなければいけない事が多くて一時期は本当にこの場所が自分に合っているのが不安になりました。それでも同期と一緒に太鼓を叩いている時や、実地研修でお客さんから良かったよと言っていただけ時には「あー、やっぱり自分の居場所はここなんだな」と思いました。多分これからも色々な壁にぶつかる事があると思います。どんな時でも自分の気持ちと周りの人の事を信じて一歩ずつ自分らしく進んでいきたいと思っています。



研修所で出会った大好きな太鼓と。

自分らしく

すずき ももこ

鈴木桃子

28歳 東京都三鷹市 出身

二十代後半、周りが結婚や出産というライフイベントを迎えている中、私は研修所に来た。当時の研修所の年齢制限は超えていたが、年齢を理由に諦めたくなかった。その思いが伝わったのか、私は入所できることになった。

しかし、二十歳前後の同期たちと生活する中で「年上だから」と理由をつけてどこか一歩引いている自分がいた。弱い自分を見せないように強がっていた。けれど、日々色々な感情を抱く中で、佐渡の雄大な自然が全てを受け止めてくれた。だからもう強がる必要はない。年齢や性別にこだわらず、少しずつありのままの自分で太鼓に向き合うことができている。自分らしく。これからはそんな私が太鼓に向き合う姿を見て、少しでも勇気づけられる人がいっぱいになると思う。



OFFの日にゆっくりお風呂に入るのが好きです！

届けたい思い

はぎわら けいせい

萩原慧誠

19歳 埼玉県毛呂山町 出身

研修所に来て、研修生として舞台上に立つて、初めて「何を思って太鼓を叩いているのか」と聞かれた。その時にすぐに答えられない自分がいた。

これまででは、ただ楽しい。それだけだった。佐渡に来て、地域の方々、鬼太鼓を教えてくださいださる方々、お店をされている方々、たくさんの方に出会った。

また、休み期間で地元に戻りいろいろな所に行くところでも、たくさんの方が応援してくれていた。

これまででは自分のためだったが、たくさんの出会いを経て、考えが変わった。

これからは見てくださる方々に「ありがとう」という気持ちをまつず、シンプルに、自分が出す太鼓の音で届けたい。



集落の原木から作ったパチは地域との繋がりを直に感じられます。

私の歩く道

ふじまき さくし

藤巻咲良

19歳 新潟県長岡市 出身

「自分」を「信じる」と書いて『自信』。私には自信を持つ勇気がなかった。周りの才能に気遅れする日々。自分にはできないと決めつけ、人前に出ることを拒んでいた。一歩踏み出るのが怖くて仕方なかった。でもそれは、自分に対する厳しさでも、誰かに対する謙虚さでもなく、自分に対する「甘え」だった。「自信がないから行動しないのではなく、行動しないから自信がつかない。時間が経たなくても良い。決して近道じゃなくて良い。できるまでやれば良い」。自分では気づき始めていた。

新潟の冬のように雪が降って寒くて暗い日々は美味しいお米のため。日本一の信濃川も冬の雪があつてこそ。私にも厳しい今があるのはいつか笑顔の花を咲かせるため。私の歩く道を信じ続けたい。



14人前のご飯をで〜っかい鍋で作るのは気持ち良い!!

豊かさに満たされて

ふなくら るき

船倉瑠生

20歳 神奈川県横浜市 出身

一年生の頃の日記を見かえしていたら悩みや葛藤が書き記されていた。だが、この生活が嫌になったことが一度もない。それはきつと恵みと活気があふれた「佐渡」で過ごす日々が、心をすこやかにしてくれていたのだと思う。

毎日のトレーニングはきついが、丹精込めて手入れをし、山水で育ったお米や野菜を食べたら、うまみと喜びを噛みしめることの方が顎がきつくなる。

また佐渡で祭りを知った。互いに囃し鼓舞し合う人々の熱さ、かける想いに心から感動した。佐渡だから得られる刺激や興奮が太鼓のみならず、すべてのことに向き合うための原動力になっている。

これから先、ここで得られた心の豊かさ、充実感を自分が出す音、表現に込め、胸の鼓動を鳴らし続けていきたい。



ここは僕の部屋です。ヤッホー!!

挑戦

もり ひなた

木村日向太

20歳 埼玉県川越市 出身

何事も挑戦が大切だと研修所で学んだ。「これをしたら、こうなってしまうんじゃないかと考えすぎて逃げたり、このぐらいでいいやと自分でリミッターをかけている」と稽古後にフィードバックを受けることがあった。今まで、周りから自分からも逃げていたんだなと気づかされた。

自分も相手も太鼓も全力でぶつかれば、全力で返してくれる。今は、研修生活と、たくさんの人との出会いからそう感じていく。何事もやってみなければわからない。やらなかった後悔よりも、やった後悔。でもなるべく後悔はないように。

43期と過ごせるのも、残り数か月。一年後はどうしているだろうかと不安になることもあるが、自分の心に正直に、全力で挑戦し、人生を楽しんでいきたい。



研修所で一番好きなもの。パチ作りと太鼓。無心になれます。

ご支援のお願い



平素より鼓童および鼓童文化財団研修所の活動に、温かいご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。研修所では太鼓の稽古に加え、掃除や炊事、農作業、地域の方々との関わりなど、日々の暮らしの中で人間性を育むことを大切にしてきました。その積み重ねが舞台の一打に現れ、各々の音となり、鼓童の響きとなると考えています。また、修了生たちは、舞台だけでなく教育・観光・地域づくり・芸術・福祉・農林業など、さまざまな場で人と人をつなぎ、日本各地、世界各地で活躍をしています。

今、私たちは研修所の基盤をさらに整えるため、環境整備に取り組み、心と体を育む暮らしの場を守っていきたくと考えています。研修所カリキュラムを通した学びは、鼓童の舞台表現を充実させるのみならず、舞台を超えて現代社会を豊かに生きる力となります。多くの皆様に研修所の歩みを共に支えていただけましたら幸いです。

鼓童 代表、鼓童文化財団研修所 所長 船橋 裕一郎

ご支援の方法

1 研修生育成支援(寄付)

研修生が自然と向き合いながら心身を育む農作業を支える「農機具」や、収穫した米を安全に保管する「保管庫」などの購入を検討しています。

研修所は、佐渡でも少子高齢化や人口減少、離農など、日本の社会課題が顕著に表れている地域にあります。祭りなどの行事に携わる方々も年々減少しておりますが、地域の皆様と関わりながら学べる環境の大切さは、鼓童の舞台をご覧いただいた方なら、どなたでも感じ取っていただけることと思います。



今後も研修所の維持・運営を続けていくためには多くの費用がかかります。研修所の設備をより充実させるため、どうか皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



鼓童サイト
「研修生育成支援」ページ

2 物による支援(インカインド)

鼓童では、物品等のご提供によるご支援も承っております。ご支援いただける方は、品名や数量等につきまして、鼓童文化財団事務局までご連絡をいただけますと幸いです。

3 鼓童×きしゃぼん 「どんどこりサイクル募金」プロジェクト

お客様のご不要になった物品をご提供いただきますと、査定・換金され、研修生が稽古で使用するパチ材の購入支援にあてることができます。



きしゃぼん(運営:嵯峨野株式会社)
URL: <https://lp.kishapon.com/kodo/>

「きしゃぼん」で
ご支援くださる皆様には、
研修生からのお礼動画
をお届けいたします。

寄付月間

鼓童は、寄付文化を日本中で広めるための「寄付月間」という全国キャンペーンに、賛同パートナーとして参加しています。



「寄付月間2025」公式サイト
<https://giving12.jp/>

本年も、ご寄付をいただきました皆様に深く感謝申し上げます。皆様からのご支援、そして応援のお言葉が、鼓童の活動を続けていく大きな力となっております。

寄付月間にちなみ、鼓童と鼓童研修生を応援して下さる皆様に感謝の気持ちをお伝えするため、**研修所からのお礼状**をお送りいたします。

また、対象期間内に1万円以上のご寄付をいただいた方には、研修生が育てた「**研修所米**」(3合・約450g)をプレゼントいたします。

対象期間:2025年11月10日(月)~2026年1月12日(月・祝)
期間内の目標額:50万円

ご送金先

[郵便振替] 加入者名:公益財団法人鼓童文化財団
口座番号:00690-9-25829

「研修生育成支援」と明記の上ご送金ください。
おそれいりますが、郵便局に備え付けの払込用紙をご利用ください。

[インターネット]

鼓童サイト「**ご支援お申込みフォーム**」ではクレジットカードをご利用いただけます。

都度の寄付は1口1,000円より、マンスリーサポーターは毎月500円から、任意の金額をお選びください。

- お礼状、お米はいずれも2026年2月中にお届けする予定です。(お米のお届け先は国内に限らせていただきます)
- 都度の寄付、マンスリーサポーター(毎月の寄付)、アニュアルサポーター(年1回の寄付)のいずれも対象となります。「**研修生育成支援**」をお選びください。
- 郵便振替用紙の通信欄、ご支援お申込みフォームの備考欄に、鼓童や研修生への応援メッセージをお寄せください。

■ 税制上の優遇措置について

当財団への寄附金や「鼓童の会」の会費は、特定公益増進法人への支援金として、確定申告により所得税等の優遇措置の対象となります。寄附金の最大40%が税金から控除されます。新潟県内にお住まいの方は、個人住民税(個人県民税)の税額控除を受けることができます。また、法人からのご支援も税制上の優遇措置の対象となります。

※ ②、③は税制上の優遇措置はございません。